

平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100220		
法人名	有限会社 エムズ		
事業所名	グループホームふきのとう北松園 1Fユニット		
所在地	盛岡市北松園四丁目36番87号		
自己評価作成日	平成 29 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100220-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成29年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から六年目を迎え、理念のもと入居者様、職員と共に日々、イキイキと元気に過ごしております。春は、目の前の公園に桜が満開になり、そして畑づくりに精をだし、夏は、手づくりの流しソーメンで笑い、盛り上がり地域のお祭りへ出かけ、好きな物をお腹いっぱい食べ、秋は、ご家族、地域の方々とお祭りの日のお祝いをさせて頂き、冬は、様々な行事と創作に専念し、実践しています。また、年間を通してアロマセラピーも好評で継続しています。法人全体の研修会では、職員が講師を務めたりと職員の技術の向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護理念として「寄り添った介護」「傾聴し心に余裕を持った介護」「残存能力を引き出す介護」「いきいき過せる環境づくり」「職員の資質向上」をキーワードとして、その実現と実践を目指し取り組んで6年目を迎えた2ユニットの事業所である。利用者が1日の多くを過ごす共用空間では、ソファ等自分の好きな居場所で新聞を読み、体操、ゲームをしたりなど、ゆったりと過ごしているほか、交流ホールからは岩手山の眺望も良く、季節には目の前の公園の桜も見え、日光浴や読書などしながら過ごせる居心地のよい空間となっている。終末期など、社会的な要請にも応え取り組んでいるほか、町内会にも加入して地域行事に参加するとともに、幼稚園児との交流、施設見学や福祉体験、ボランティアの受け入れ等にも努めている。法人が取り組んでいるお祭りは盛大で、地域では各事業所とも「ふきのとうグループ」として認知されている。さらに地域との連携・交流を一層深めるため、目標達成計画に運営推進会議の活発化を掲げるなど、今後が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 1Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに掲示しており、理念に基づいたケアが提供できるよう日々、実践している。また、介護理念を追加作成し、質の向上を図り、実践につなげるよう努めている	運営理念を基に事業所独自の5つの項目の介護理念を定め、その理念(目標)にそった取り組みが実践されているか否かを、ユニット会議等で話し合い、気付きに繋げる取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練や祭りへの参加、保育園児との交流を図っている。施設行事には、近隣住民の方々をお誘いしたり、外部からのボランティアを募ったりしながら交流の機会を増やしている	地域の各種行事に参加すると共に、幼稚園児との交流、施設見学や福祉体験、ボランティアの受け入れ等を積極的に進めている。また、法人が開催するお祭りは盛大で、地域では各事業所とも「ふきのとうグループ」としてその活動が認知されている。	地域に開かれた事業所として、事業所行事を通して地域との交流を深めたいとする目標達成計画は素晴らしい。事業の継続を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生を福祉体験で受け入れをして、認知症の方の理解や支援方法を説明させて頂き、また、接することで理解してもらう機会となっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行しているふきのとう新聞で取り組みを報告している。様々な情報や助言を頂き取り組み、また検討していることもある	会議では利用、活動状況報告のほか、要望・助言・確認(質疑応答)の時間を設けており、家族からは職員を知るための職員紹介方法や家族との懇談会の開催の増などの要望・提案があり、直ちに意見を反映している。	目標達成計画には会議での議題のマンネリ化を解消し「ニーズにあった話し合い」を目指すことを掲げておりその努力がうかがえる。会議の意義を再確認し、当面する課題を議題にする会議の活性化に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請、更新時の連絡と運営推進会議の議事録を持参し、関係づくりに努めている	家族懇談会の開催、外部評価に基づく目標達成計画作成等の報告のほか、介護保険の申請、更新時の連絡、ケア会議への出席などを通して行政との連携・協力関係をより確かなものにしていく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体と施設内研修で年2回の研修を行い、また振り返りと再確認をしている。見守りや適切な介助で拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は安全の為、夜間のみ施錠している	今まで身体拘束を必要とする事例はない。年間計画に基づき法人全体と事業所内研修を実施し拘束をしない取り組みをしている。言葉についても自分に置き換えて考え、日々意識し振り返りとお互い確認し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体と施設内研修で年2回の研修を行い、また振り返りと再確認をしている。全員で言葉遣いや態度を意識し合い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行っている。現在は、この制度を利用している人はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に必ず、事前説明を行っている。契約書を十分に説明し、疑問点を訪ね、理解して頂き納得された上で締結している。料金の改定時の料金変更について書面で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置している。また、何でも話せる雰囲気づくりに努め、面会時、行事の参加時に意見、要望を伺っている。家族懇談会は、継続し行っている。	運営推進会議や家族懇親会での意見反映のほか、家族から事業所看板の設置工夫やポリデントの減り具合、血糖値上昇を契機とする運動を取り入れる取り組みの要望など、普段、なかなか気付かないことを気づかされ、職員の注意力向上等に繋げ運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は、全職員から意見要望を聞く機会を設け、管理者は、朝、夕の申し送り、ユニット会議、研修会で意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	代表がグループワークや個人面談等を通じて職員から目指すもの、業務の改善工夫等を聴取している。また申し送りやユニット会議などで意見等を聞く機会を持っており、例えば、流しそうめんの行事への導入、パラソルやテント準備、業務記録作成の効率化等の提案があり、これら職員の気づきやアイデアを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、勤務状況を把握し、昇給、賞与に勘案している。職員の考えや意向を聞き、職場環境の整備に努めている。希望休も可能な限り応えられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行っている研修を含め、月に1~2回研修会を行っている。外部講師を招いたり、また、経験やスキルに応じて外部研修や資格取得に向け研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例研修会に出席し、意見交換や交流を図り、また施設の交換研修の機会があり良い刺激になりサービスの向上にもつながっている。地域ケア会議にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや事前調査の際には、本人の要望、不安等を把握できるように努めている。必ず訪問し本人のペースに合わせ、話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での様子や、入居までの経緯を伺い、不安なことや要望、また介護疲れや様々な思いに寄り添い話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を伺い、必要時には担当ケアマネジャーとの相談をおすすめしている。また、緊急を要する場合は他の施設を紹介するなど柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が援助するだけでなく、一人ひとりの力に応じたことを日常的に食事の準備や花の世話など一緒に行い共に生活しているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会等の行事は、ご家族を招待し交流が図られている。通院介助は家族に依頼し、本人の関わりを密にし出来るだけ協力を頂き、本人が穏やかに生活できるよう共に支え、関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状のやり取り、馴染みの人の面会、美容院や店に出向いたり関係が途切れないよう努めている。お墓参りは、欠かさないで行かれる方もいます。	利用者によって馴染みの人や場所に対する対応の在り方は様々である。年齢と共に友人も少なくなる中で、手紙等の交流を大切に途切れない支援に努めたいとしている。また、お祭り見物では椅子やテントを用意してくれるなど、地域とのつきあいの中で新たな馴染みの関係も生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように座席位置を考慮し、また会話や役割を通して円滑な人間関係を築けるよう支援している。各ユニットが気軽に交流が図れるような環境になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこちらから様子を伺ったり、また家族からの連絡で利用者の様子を聞くことができた、関係が継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時など世間話をしながら要望等ないか把握に努めている。意思表示が困難な利用者は、日々の行動や表情を観察し、また、ご家族からも伺い、把握に努め、一緒に検討している。	散歩時や介助中の関わりで聞き取ったことのほか、表情の変化等から気づいたことを、ケース記録や気づきノート等に記録し、その情報を共有しプラン作成やケアの中で活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族やこれまでに関わってきた事業所からも情報収集し、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個々のペースで生活できるように支援し、毎日の関わりを申し送りや気づきノート等で個々の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアミーティングや担当者会議での情報のもとプランに反映し、また、本人や家族の意向を確認、見直しをして現状にあったプランを作成している。	毎日の申し送りや経過記録、気づきノートを活用しながら、毎月のケアミーティング、3ヶ月ごとのモニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成している。状況や介護度に変化があったときは本人の意向や家族等のアイデアを反映しながら見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや経過記録、気づきノートの活用で情報共有しケアに活かしている。3ヶ月ごとのモニタリングを実施し、必要時にはプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望により訪問歯科、訪問看護、福祉用具、介護タクシー、理美容院などと、その時どきの生まれるニーズに対応し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で情報を頂きながら地域のお祭りや保育園に出向き関わり、また、地域のボランティアの方々に来ていただき本人が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご家族様をお願いをしている。定期通院等、主治医宛に受診連絡票を持参して頂き、また、事情により主治医に連絡をし助言を頂いたり、家族の了承のもと職員が同行している。適切な医療を受けられるように連携を密にしている。	医療受診はかかりつけ医を利用し、その際は家族同行を基本としているが、家族が対応困難なときは職員が対応している。なお、連携している訪問看護ステーションの訪問により、体調変化等を細かく訪看ノート記録してもらい、通院時に活している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し週1回体調管理で訪問して頂いている。訪看ノートを活用し体調変化を細かく報告、相談、助言を頂き、状態により通院の判断や主治医へ報告されることもある。必要のある方は医療処置も行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様の情報提供を行い、入院中は、面会に行き、状態を把握し病院関係者からの情報交換や相談を密に行い、利用者、ご家族が安心できるよう関係づくりに努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でグループホームでできる事とできないこと、指針の説明を本人、ご家族へ行い、話し合い意向を伺っている。状況に応じて、その都度、意向を確認し関係者と連携を密に図り、支援に取り組んでいる。	終末期対応の指針を整備しており、これまでに2人の看取りを経験している。外部講師を招き研修をしているほか、マニュアルも整備し職員の意識の向上と共通理解に努めている。また、主治医の指導と訪問看護ステーションと連携、支援の下で取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署に依頼し、緊急時の対応として救急蘇生法等の訓練を行っている	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、日中と夜間を想定した火災訓練と地震、風水害の訓練を行っている。災害時のための備蓄の再確認をした。また、地域の防災訓練にも参加し地域との協力体制を築いている。	日中と夜間を想定した火災訓練の実施のほか、災害対策として地震、風水害も加えて、年3回の避難訓練を実施している。また、北松園小学校を訓練会場に行っている地域の防災訓練にも参加している。具体的な地域との協力体制の構築は今後の課題としている。 災害を想定した実践的な訓練とともに、日頃から地域住民や警察署、消防署等との連携が災害対応の基礎となる。運営推進会議を活用するなど、地域との協力体制の構築という課題解決への取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を傷つけないように「もし自分だったら」と自分に置き換えて言葉かけや対応を心がけている。接遇・プライバシーの研修と振り返りを行っている。	入浴やトイレの介助時は羞恥心に配慮するほか居室に入室する際はノックする等注意している。また、接遇については外部講師を招いて研修しているほか、グループ全体では、プライバシーの確保や個人情報保護等についても研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や活動など様々な場面で選択を頂いたり思いを表せない方は表情やしぐさ等から思いをくみ取り自己決定に近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞きながら自分のペースに合わせ、添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った好きな洋服を選んでいただいたり、イベントなどはお化粧を楽しみに喜ばれる方もいる。男性利用者も自分らしい服装でイベントに参加している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に収穫した野菜や旬の食材を取り入れ季節感を感じてもらおうよう心掛けている。食事の盛り付けや味噌汁の味見、食器拭きなど様々な準備、後片付けを一緒に行い、召し上がる前は、献立を紹介し利用者が挨拶をして下さる	ご飯、味噌汁以外の調理加工は外部委託であるが、季節感や栄養バランスに留意し献立に合わせた食材が毎日届けられる。利用者は盛り付け等、できることを手伝い職員と一緒に食事し、おやつ作りも楽しむ。当日はバレンタインデーでチョコレート作りを楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛りつけ、形態、量等、一人一人の状態に合わせて対応している。また、塩分、水分、体重制限がある方は医療面、栄養士からの助言を頂きながら支援している。毎月、体重測定を実施しているが毎日の測定が必要な方も対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し行っている。一人ひとりの状態に合わせて対応している。口腔内を観察し必要に応じて介助している。義歯は洗浄液につけ、清潔保持できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員がトイレで排泄できている。リハビリパンツを使用している方もいるが一人ひとりの排泄パターンを把握し失敗を減らすよう努めている	日課表の排泄チェック欄を活用し、排せつパターンを把握しながら、定時誘導のほか、パターンがわからない(便意等を認識できない)利用者等は適時に声掛けをしている。失禁などの失敗が少なくなり自立改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、薬の影響などを理解し、対応等検討し、予防に努めている。食事の工夫、牛乳、水分摂取を促している。排泄困難時は、温タオル、腹部マッサージを施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行い、週3回以上入浴できるよう曜日は目安として分けさせていただいているがその方の状況、状態、気持ちに合わせて臨機応変に対応している。ゆずを沢山入れゆず湯にした時はとても喜ばれていた。	週3回以上の入浴は年齢から厳しく、体調等変化に応じた入浴が大事と考えている。入浴を嫌がる利用者もいるが、様子を見て時間、タイミングをずらしたり、清拭や足湯、シャワー浴も活用しながら、入浴を楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースで休んで頂き安心して休息している。また、昼夜逆転にならないよう日中の過ごし方について気を配っている。寝具や照明、温度、湿度、環境など今までの習慣を考慮し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を確認し、理解している。服用時は、必ず職員二名でダブルチェックを行い、飲み込むまでの確認を徹底している。薬の変更等で体調に変化見られた時は、主治医、訪看に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中から、たくさんの楽しみ事など伺うことができ、それを日常生活の中で取り入れることでイキイキしている。今後も張りのある生活が継続できるよう支援したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調や天候に合わせて散歩に出かけることや畑仕事は日課になっている。また、ご家族と定期的に外出、外泊をされ、出かける機会を継続できるよう支援している。	天気の良い日は散歩や敷地内の畑仕事で気分転換や体調管理を図っている。家族とはショッピングセンター等に出かけたり、自宅に帰る利用者もいる。また遠出として石神の丘や岩手公園等、季節毎の外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、自己管理できる方はご家族の了承のもと所持して頂いている。ご自分のお財布から床屋代の支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	息子様や娘様と電話で話をしたり友人への手紙や年賀状のやり取りがあり継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間で過ごされる方が多く、常に清潔に努め、室温、温度、太陽光などにも配慮し居心地よく過ごせる空間を工夫している。交流ホールは、ご家族が面会に来た際、利用したり洗濯たみをされるのに利用している。夕方、アロマを焚いている。	1日の多くを過ごす共用空間のホールには、厨房やテーブル、壁掛け式の大型テレビ、ソファを配し、明るく、十分な広さがある。ソファ等で自分の居場所を決め新聞を読む人、本を読む人など、好きなどころで自由に過ごしているほか、体操やゲームと、活動も活発である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になったり、足を伸ばしたりできるソファがあり交流ホールで読書や日記を書くなど、思い思い好きな場所で過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に努めている。ご本人の馴染みの物を飾ったり配置して頂いている。ご家族も面会にいらしたときに一緒にくつろげれるようテーブル、椅子を設置するなど明るく、居心地を良く過ごせるよう工夫している。	居室にはパネルヒーター、エアコン、空気清浄機、洋服タンス、整理タンス、ベッドが備えられているほか、馴染みの家具、椅子やテーブルを持ち込み、来訪した家族とともに自分らしく落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害となる物などは、その都度片付け、お手伝いをして頂くなど利用者様の意向や行動を妨げないよう環境整備をしている。		